

とりうみ敏行活動報告《5月》

=元氣の出る訪問活動でした=

市議選予定候補：とりうみ敏行



後援会員、ニュース読者のみなさんこんにちは、とりうみ敏行の5月活動をお知らせします。

日増しに日差しが強くなり、週3回の駅頭宣伝、20回の街頭宣伝、200軒の訪問など、支部のみ

なさんと日焼けが進んだ5月になりました。

訪問のなかでは、元町の児相跡地が公園になることへの喜びの声や、「高戸荘」が残されることへの感謝の声が寄せられて、私も元氣が出る訪問活動だったというのが5月活動の感想です。

さて、1日は北浦和公園での中央メーデー参加、多くの方から激励をいただくと同時に、市議団とともにパレード行列激励のためマイクを握りました。

3日の憲法記念日は、伊藤岳参院選挙区候補とともに浦和駅西口で宣伝。

安倍内閣の危険な「暴走」が加速する中での訴えに、道行く人からも「憲法守って」の声が寄せられました。

15日は、秩父事件の痕跡を訪ねて浦和区後援会のバス旅行に参加。

改めて歴史の重みと農民のたたかいの偉大さを知ることになりました。

ご参加いただいたみなさん、ありがとうございました。

23日には、党市議団とともに、南区、浦和区の労働組合を訪問。

「労働者派遣法の改悪反対」で協同を呼びかけた党の訴えをおこないました。

コーポネット労組、アイユーテック、法会労など、5組合を訪問し、懇談しましたが、何処の組合も突然の訪問にもかかわらず快く対応してくださいました。

6月は、訪問300軒、全ての駅頭宣伝、街頭宣伝50回など、目標を持って取り組み



憲法記念日の宣伝活動をするとりうみ候補・浦和駅西口

ます。

とりわけ、新入会者を一人でも多く迎えるために頑張ります。

来月もよろしく お願いいたします。

とりうみ敏行候補と 「赤旗」読者、後援会員を訪問

岸町：佐々木幹広



梅雨の“はしり”を思わせる日が続いています。

岸町後援会と支部は5月に入り、7日、鳥海候補と来年の選挙を目指して元気に「赤旗」読者や支持者のみなさまを訪問しています。前回市議選以来3年間浦和区は共産党の議席を

失いました。以来浦和市民の要求が十分に市政に反映されず住民のみなさんに不便さを与えご迷惑をかけていると、このことを先ず釈明し今度こそ議席獲得を実現するための訪問活動に取り組んでいます。

訪れたどの家でも快く応対して「頑張ってください」と迎えてくれます。

この中で、あいさつに寄った高砂町の弁護士Nさんは「期待しています。頑張ってください」と激励していただきました。ここでは海外で米国の戦争への参加などの危険な情勢を話すと再度「赤旗」日刊紙の購読を約束してくれました。

次に訪問した元読者のKさんは「今一人暮らし、少し考えさせて、しかし、下水道値上げは許せない、清水市長の自転車競技などの財政負担を市民にかぶせることは論外」と怒っていました。

22日はポスター張りの予定でしたが悪天候のため支持者訪問に切り替えました。

この日、前回訪問したKさん宅を再度訪ねました。「先日訪問のとき日曜版購読を考えて

みると云われたがその後いかがですか」「読んでみましょう」と快諾してくれました。この人は、「安倍首相はテレビで報道される様子を見ても横暴で威張っている」と話していました。

続いて喫茶店Zを訪ねました。この店は短期日刊紙を中止していました。鳥海候補があいさつの主旨を伝えると、「判っています」とここで快諾して購読を続けてくれました。

次の訪問先はいつでも塀にポスターを張っていただくUさん宅、お世話になっているお礼を述べたあと、加藤紘一元自民党幹事長の「赤旗」日曜版を見せながら今の危険な情勢を話し、購読を勧めると「1ヶ月読ませてくださいませんか」とここは初めて購読を約束してくれました。

私は、今回の行動を通じて感じたことは、今、多くの人たちは日々押し進めている自・公・民の集団的自衛権行使の企みを注目している、危険な情勢を熱心に話していけば多数の人々に理解され情勢を変えることが出来ると思いました。

鳥海さんと後援会バス旅行

常盤南：沼澤 裕和

私にとって今回のバス旅行の目玉はズバリ井上传蔵邸であった。4年ほど前、友人3人と車で探索した時、椋神社とかは行けたが井上邸の存在がわからず見過ごしていたからだ。

旅行前日から一種ワクワクしていて、母から、「そんなに期待するほどじゃないと思うよ」と言われたりしたが、実際に井上邸白壁を目にしたときは「丸井の旦那、よう忍んでくれやした、永かったでせう」と、同じ村にいた人のような気持ちが一瞬よぎりました（ドラマの中に入り込みやすい性格なもので）。

現地歴教協の先生の説明で、ここも椋神社もあらためて興味深く見られました。

やはり秩父事件は県民として折に触れて思い起こすべき財産だと思うし、あの秩父困民

掠神社で篠崎先生から説明を受ける参加者



党の悔しさはこんにちの我々貧民の悔しさにも連綿と繋がっているわけで、来たるべき来年の統一選では鳥海さんにどうしても勝ってもらわなければ我々の現政府、さいたま市政への怒りはおさまらないのです。がんばろう！東北、もとい、日本共産党！

会津若松「すとう農産」の生活で学ぶこと

北浦和：高瀬 大貴

こんにちは。埼玉大学教育学部の学生です。私は現在、大学を休学して、福島県の会津若松の「すとう農産」という農家で研修生として学ばせて頂いています。こちらは今、田植えが終わり、ちょっとひと休みといったところですよ。

私が福島に行った理由を説明したいと思います。私は昨年度、大学のゼミ活動にて、1年間、福島と原発の問題について学習しました。学習していると、福島の人々がいかに「苦しんでいる」のかがわかってくるのですが、それ以外のことは正直、あまりわかりませんでした。本当は「苦しい」だけではないはずなのに、「苦しい」ということだけしか取り上げられないように思うのです。だからこそ、福島で生活している人の実情が知りたかったのです。

確かに、福島第一原発から100km以上離れたここ「すとう農産」でも、放射能検査で

はなにも検出されていないにも関わらず、多大な風評被害を受けていて、苦しんでいると言えそうなのですが、働いている人々は、元気に明るく、美味しく健康に良いお米や野菜をいかにして育て、そして食べて頂くかを前向きに考えています。従業員の一人は「苦しい」状況があるからこそ、今まで以上に一つひとつのことを考えるようになったと言っていました。

ここ福島で生活し働くことによって、私は人や生き物から「生き方」を、まさに身をもって教えて頂いているように思います。

増税の

悲鳴聞こえぬ

安倍総理

公明党

自民に反対

ポーズだけ

NHK

政府の宣伝ぬけぬけと

川柳

岸町…だん吉

輝け！日本国憲法のつどい

領家：針谷 努

5月21日、埼玉憲法会議が主催する、輝け！日本国憲法のつどい、「戦争する国」ストップ・「壊憲」も「改憲」も許さない！講演会（講師：森英樹名古屋大学名誉教授）に参加した。おりしも15日、安倍首相が「憲法解釈の変更」による「集団的自衛権行使容認」に強い意欲を示した記者会見が行われたこともあり、埼玉会館小ホールは多くの参加者でほぼ満員となった。始めに、安倍首相による憲法壊しが平等・表現の自由・教育を受ける権利・学問の自由・生存権・労働権、そして日本国憲法の根底＝歴史的反省と非軍事平和主義を壊す9条改憲・壊憲と・・・全分野にわたって進められていることが、憲法条項に照合し具体的に指摘された。安倍首相は、先の参議院選挙の公約に掲げた「新『防衛計画

の大綱』策定に関わる提言」があたかも信任されたかの如く暴走している。これは自民党の自主憲法制定案に基づいて作成されたもので、憲法がまだ変えられてもいないのに、この提言に乗っ取り次々と憲法壊しが進められているということである。その大きな目標が9条壊し、「集団的自衛権行使容認」であり、最終的目標が「改憲（自主憲法制定）」、「戦後レジーム（体制）からの脱却」なのである。民意を反映しない選挙制度で圧勝し、今や安倍政権はやりたい放題の暴走を美辞麗句でカモフラージュしながら疾走している。こんなことを許してはいけない。平和憲法の戦後最大の危機である。平和憲法で育った人間として、今できることをしなければの思いを胸に帰路に着いた。

| | | | | | | |
|--------|------|-----|---------|------|--------|----|
| ひた走るだけ | 戦争の道 | 自衛権 | あおりにあおり | 国の危機 | 岸町・佐久間 | 狂歌 |
| | | | | | 純 | |

街角だより

「酒処みやび」で当世床屋談議

東口：古澤 英二

浦和東口後援会の親睦会などで時々行っている「酒処みやび」という居酒屋さんを紹介します。場所は、浦和駅改札口を東側に出て、パルコの北側方向にある商店街、トータルビューティサロンと弁当屋さんの間を1分位歩いたところに左側にあります。

このお店の良いところは、お客さん同士がすぐ仲良くなって自然に話ができることです。またカラオケも置いてないので、じっくり話がしたいときにぴったりです。人情味たっぷりのママの宇佐美さんは福島県会津出身の方だそうで、喜多方市の地酒「蔵」を冷ですすめてくれます。

ママさんに共産党のいいところを話して貰いました。「ずばり政党助成金や企業献金を貰ってないことね。貰ってないから遠慮なくなんでも主張できる。私の性格と同じです。ここのお客さんにも共産党を支持してくれる方も多いですよ。お店で政治談議は大いに歓迎です。」

開店以来の常連の一人、60代後半の男性鷺谷さんが熱く語ってくれました。「共産党はぶれないところがいい。ふらふらしている政治家があまりに多すぎる。演説や討論会では、特に小池あきさんの歯切れのいい簡潔な語りが気に入っています。頑張ってください」。

皆さんも浦和に来たときは是非「みやび」にお寄りください。

安倍政権の暴走ストップ!

共産党演説会 INさいたま

8月31日(日) 午後2時開会
埼玉会館大ホール

弁士 山下 芳生 書記局長

この1冊『ある教師の戦後史—戦後派教師の実践に学ぶ』

野々垣 務編

後援会会長の野々垣さんが編集した本です。21人の戦後派教師を全国各地に訪ね行き、インタビューしています。登場するひとり一人の教師がとても魅力的です。戦後民主教育草創期の教育実践を野々垣さんとの対話形式であらたに甦らせていきます。それぞれ教師の人間性豊かな教育実践がリアルに浮き彫りにされ、この対話を通じて戦後日本の歴史の検証にもなっています。野々垣さんは「あとがき」で、「忘却は最大の罪であり、敵である」。この本は、「歴史を記憶し続けるために」出版されたと言っています。一読をお勧めします。(石川)